

科目番号	教室	登録人数	履修登録方法
B学共118	[月7]共2-100	50	抽選対象
開講年度	期間	曜日時限	開講学部等
2025	後学期	月7	国際地域創造学部国際地域創造学科
講義コード	科目名[英文名]	単位数	
g00056002	実用英語演習 I	2	
担当教員[ローマ字表記]			
高良 宣孝			

## 授業の形態

講義、演習又は実験

## アクティブラーニング

学生が議論する、学生が自身の考えを発表する、学生が文献や資料を調べる

## 授業内容と方法

この授業は対面授業となります。

この授業では、課題演習として事前に与えた英文課題や当日配布する英文課題に取り組んでもらい、英語と日本語の文法構造等の違いに着目し、文脈を正しく把握し英文の意味をしっかりと捉えより適切な日本語に訳す練習をします。クラス内または事前に与えられた課題の日本語訳をグループ内で比較検討したりクラスで発表したりしてもらい、クラスメイトや講師からのコメントを聞き、文脈にあったより適切な日本語の訳し方を学んでいきます。

第1回～第2回の前半の講義では、イントロダクションとして英語と日本語の基本的な構造の違いや日本語の特徴について解説し、それ以降の英文和訳演習に備えます。

第2回の後半～第3回では、個人で簡単な英語の「絵本」を訳してもらいます。ここでは、単に「絵本」の英文を和訳するのではなく、子供（未就学児）に読み聞かせするうえで子供が興味を持ってくれるような日本語になるように工夫することが重要です。従って、子供でも分かり楽しむことのできるような日本語に訳す練習をします。第3回の講義では、各自和訳した絵本のプレゼンテーションをしてもらいます。その際は、子供に読み聞かせすることを意識してプレゼンテーションを行なって下さい。

第4回～第7回では、講師が用意した英語で書かれた「観光案内」の文章の和訳をグループで取り組んでももらいます。グループそれぞれに配布された別々の「観光案内」の文章をグループで協力して和訳してもらいます。観光案内を和訳する際には、グループ内で確認・ディスカッションしてより良い和訳が出来るようにしてもらいます。第7回の講義では、グループ毎にプレゼンテーションをグループで行ってもらいます。グループのメンバーで協力してプレゼンテーションを行なって下さい。

第8回～第11回では、講師が用意した英訳版の「マンガ」の和訳をグループで取り組んでももらいます。初めに講師が用意した「マンガ」をグループそれぞれに配布し、それぞれの「マンガ」をグループのメンバーで協力して和訳してもらいます。マンガを和訳する際には、グループ内で確認・ディスカッションしてより良い和訳が出来るようにしてもらいます。第11回の講義では、グループ毎にプレゼンテーションをしてもらいます。その際は、可能な限りマンガ内の登場人物になりきって簡単な演技をしてもらいます。

第12回～第15回では、洋楽の「（英語の）歌詞」の和訳をグループで取り組んでももらいます。グループそれぞれが選んだ洋楽の「歌詞」をグループで協力して和訳してもらいます。ここでの和訳は単に英語を和訳するのではなく、実際にメロディーに合わせて歌うことが出来るように工夫して和訳してもらいます。洋楽の歌詞を和訳する際には、グループ内で確認・ディスカッションしてより良い和訳が出来るようにしてもらいます。第15回の講義では、グループ毎にプレゼンテーション（1回目は和訳した歌詞の朗読、その後実際に和訳した歌詞で歌ってもらう）をもらいます。また、第15回の最後には、この講義のまとめを行ないます。

評価は、大きく分けて（１）英文和訳の課題（個人またはグループで）、（２）プレゼンテーション（個人またはグループで）、（３）英文和訳のハンドアウトのHW（全13回予定）の3つで行ないます。（１）と（２）は上記で説明した内容となります。（３）に関しては、講師が用意したハンドアウトの英文の和訳をもらいます。これらの英文は、様々な英語の構文を使った英文で、それらの構文をしっかりと理解したうえで和訳してもらいます。（１）と（２）の提出日は授業計画で確認して下さい。（３）の提出日は、課題が出された翌週の授業終了後とします。詳細に関しては下記の「評価基準と評価方法」で確認して下さい。毎回与えられた課題にしっかり取り組み、クラス内でしっかり発表してもらい、英文和訳の技術を高めてもらいたいと思います。

## URGCC学習教育目標

自律性、社会性、地域・国際性、コミュニケーション・スキル、情報リテラシー、問題解決力

## 達成目標

1. 英語と日本語の構造の違いを理解して、文脈に合わせて適切な日本語に訳すことが出来る。[自律性][地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー][問題解決力]
2. 訳した日本語を発表し、適切に内容を共有することが出来る。[自律性][社会性][地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー][問題解決力]
3. 英文法をしっかりと理解し、適切な日本語に訳すことが出来る。[自律性][地域・国際性][コミュニケーション・スキル][情報リテラシー][問題解決力]

## ■ 評価基準と評価方法

評価は以下の方法で行ないます。

1. 英文和訳の課題：50%（達成目標1. 3. ）（詳細は以下を参照；提出日は授業計画で確認すること）
  - (1)絵本【個人】：10%
  - (2)観光案内【グループ】10%
  - (3)マンガ【グループ】：15%
  - (4)歌詞【グループ】：15%
2. 発表（個人発表・グループ発表）：30%（達成目標2. ）（詳細は以下を参照；発表予定日は授業計画で確認すること）
  - (1)絵本（子供向けの読み聞かせ）【個人】：5%
  - (2)観光案内【グループ】：5%
  - (4)マンガ（可能な限り登場人物になりきり簡単な演技に取り組むこと）【グループ】：10%
  - (5)歌詞（朗読及び歌唱）【グループ】：10%
3. 英文和訳のハンドアウトのHW（全13回予定）：20%（達成目標3. ）（提出日は課題が出された翌週の授業終了後）

3分の1以上欠席をした場合は、学則に従い単位を与えません。注意して下さい。

## ■ 履修条件

国際地域創造学部夜間主コース対象。

国際言語文化プログラム（夜）の必修科目。

## ■ 授業計画

- 第1回. 10/6：イントロダクション、英語と日本語の違い・日本語の特徴  
・HW(1)
- 第2回. 10/15(Wed.): 英語と日本語の違い・日本語の特徴（続き）、絵本（1）  
・イントロダクション、「絵本」の和訳【個人】  
・HW(2)
- 第3回. 10/20：絵本（2）  
・「絵本和訳」のプレゼンテーション【個人】  
・HW(3)  
・課題1「絵本和訳」【個人；提出締切：10月22日（水）19時】
- 第4回. 10/27：観光案内(1)  
・イントロダクション、「観光案内」の和訳練習【グループ】  
・グループ・ディスカッション  
・HW(4)
- 第5回. 11/6(Thurs.): 観光案内(2)  
・「観光案内」の和訳演習【グループ】  
・グループ・ディスカッション  
・HW(5)
- 第6回. 11/10：観光案内(3)  
・「観光案内」の和訳演習【グループ】  
・グループ・ディスカッション  
・HW(6)
- 第7回. 11/17：観光案内(4)  
・「観光案内和訳」のプレゼンテーション【グループ】  
・HW(7)  
・課題2「観光案内和訳」【グループ；提出締切：11月19日（水）19時】
- 第8回. 12/1：マンガ(1)  
・イントロダクション  
・「マンガ」の和訳演習【グループ】  
・グループ・ディスカッション  
・HW(8)
- 第9回. 12/8：マンガ(2)  
・「マンガ」の和訳演習【グループ】  
・グループ・ディスカッション  
・HW(9)

- 第10回. 12/15 : マンガ(3)
- ・「マンガ」の和訳演習【グループ】
  - ・グループ・ディスカッション
  - ・HW(10)
- 第11回. 12/22 : マンガ(4)
- ・「マンガ和訳」のプレゼンテーション【グループ】
  - ・HW(11)
  - ・課題3「マンガ和訳」【グループ; 提出締切: 12月24日(水) 19時】
- 第12回. 1/5 : 歌詞(1)
- ・イントロダクション、「洋楽」の選択
  - ・「洋楽の歌詞」の和訳練習【グループ】
  - ・グループ・ディスカッション
  - ・HW(12)
- 第13回. 1/13(Tue.) : 歌詞(2)
- ・「洋楽の歌詞」の和訳演習【グループ】
  - ・グループ・ディスカッション
  - ・HW(13)
- 第14回. 1/19 : 歌詞(3)
- ・「洋楽の歌詞」の和訳演習【グループ】
  - ・グループ・ディスカッション
- 第15回. 1/26 : 歌詞(4)、まとめ
- ・「歌詞和訳」のプレゼンテーション【グループ】
  - ・課題4「歌詞和訳」【グループ; 提出締切: 1月28日(水) 19時】
- 第16回. 2/2 : 予備日

## ■ 事前学習

1. 与えられた課題に事前に取り組んでおくこと。
2. 発表に向けてしっかり準備を行なうこと。

## ■ 事後学習

1. 発表時のコメントや課題やHWに関する講師からのコメントを基に取り組んだ課題を再確認すること。

## ■ 教科書にかかわる情報

教科書	書名	適宜配布・貸与・紹介する				ISBN		備考	
	著者名								
	出版社		出版年		NCID				

## ■ 教科書全体備考

適宜配布・貸与・紹介します。

## ■ 参考書にかかわる情報

参考書	書名	ジーニアス英和辞典 第6版			ISBN	9784469041873	備考	
	著者名	南出康世 [編集主幹]						
	出版社	大修館書店	出版年		NCID			
参考書	書名	リーダーズ英和辞典 第3版			ISBN	9784767414324	備考	
	著者名	高橋作太郎 [編集代表]						
	出版社	研究社	出版年		NCID			
参考書	書名	英文法解説 改訂三版			ISBN	9784760820092	備考	
	著者名	江川泰一郎						
	出版社	金子書房	出版年		NCID			
参考書	書名	Practical English Usage Fourth Edition			ISBN	9780194202411	備考	
	著者名	Michael Swan						
	出版社	Oxford University Press	出版年		NCID			
参考書	書名	Grammar in Use Intermediate (American English)			ISBN	9781108617611	備考	

	著者名	Raymond Murphy					
	出版社	Cambridge University Press	出版年		NCID		

参考書全体備考

その他適宜紹介します。

使用言語

日本語

メッセージ

1. 問題演習には辞書が必要になります。各自毎回の授業に必ず英和辞典（書籍・電子・オンラインいずれも可）を持参して下さい。基本的には教員からの貸出しはしません。またクラスメイトの迷惑となるので授業中のクラスメイトとの辞書の貸し借りは禁止します。
2. 時間に制約がありますので、必ず各課題（絵本・観光案内・マンガ・洋楽の和訳）は授業内だけではなく自宅でもやってきて下さい。
3. HWは各自しっかり取り組んで下さい。HWは課題が出された翌週の授業終了後に提出してもらいます。特別な理由なく遅れて提出した場合は減点の対象となります。

上記の内容・日程は、変更・修正されることもあります。

オフィスアワー

オフィス：共通教育棟3号館213室、Tel：098-895-8906

オフィスアワー：

月曜日：13:00～14:00

水曜日：18:00～19:00

その他、研究室に在室している場合は可能な限り質問を受け付けます。

メールアドレス

この項目は教務情報システムにログイン後、表示されます。

URL